

政治経済学のモデル、とくに Electoral Competition のモデルにおいては伝統的に政治家だけが存在して政党はそのラベルでしかないか(Wittman(1983))、政党だけあって政治家は存在しない（それとも政党の駒としてだけ存在する）ことが多かった(Grossman & Helpman (1996))。つまり、政党と政治家の区別が明確にはされてこなかった。近年、その区別を明確にして政党内における政治家達の行動、ひいてはそれらへの影響を通じた政党の存在の役割についての論文が書かれるようになってきた(Caillaud and Tirole (2002))。この論文もそのうちの一つであり、政党組織が Electoral Competition におけるモラルハザードの解決に果たしえる役割の一例を示す。

モラルハザードの問題として、政策の結果についての不確実性がある場合の政治家から有権者への情報伝達の問題を考える。政治家が政策の結果について有権者よりも有利なポジションにある場合、選挙に際しての選挙公約は政治家から有権者への情報の伝達として働きうる。しかし政治家が政策についての選好を持つ場合、政治家には嘘をつく誘因がある。この問題を取り扱った論文は数多くあるが、Electoral Competition についての一般の論文同様、個々の政治家がメインとなり、彼らの属する政党はラベル以上の働きをなさないことがほとんどであり、またモデルの中の政治家達は機会主義的に有権者の利益を害する行動を選択することが多かった(Heidhues and Lagerlof (2003))。しかし個々の政治家の機会主義的な行動は、長期的にはその政治家が属する政党を害する可能性が高い。その場合、政党には政治家の行動を規制する構造がありうるはずである。この論文が示すのはそういった構造である。

この論文では、政党のモデルとして Alesina and Spear (1988) および Harrington (1992) らをベースに Overlapping Generation organization としての政党組織を考える。無限期間において二つの政党があり、各期ごとに選挙が行われ、勝者は公約した政策を選挙後実行する。各期に各政党は大統領候補(PC)と副大統領候補(VPC)の2名からなる。VPCは次の期にはPCになり、PCはその政治生命の最後の期にいる。実行される政策の結果については不確実性があるが、政治家たちはその結果について、有権者が知りえない情報を各期の初めに受け取る。情報を受け取ったPCは選挙公約を公表し、VPCはPCのための選挙活動を行う。有権者はVPCの選挙活動を観察して、どの政党に投票するかを決める。ただし各党はそれぞれ政策についての選好を持っており、そのためPCには受け取った情報を無視して自身の望む政策があたかもその情報からみて最適なもののように公言する誘因があることになる。Harrington (1992) (および Alesina & Spear(1988))は政治家が自身の選挙公約を守るかどうかの問題を、OLG 政党モデルに reputation を持ち込んで解決した。この論文においても reputation を持ち込み、モラルハザードの問題がある程度やわらげられる（完全にはなくなる）ことを示す。

OLG モデルは政治経済学の分野でも一般的に使われるが、Harrington、Alesina&Spearを除くと Electoral Competition において政党のモデルとして使われたことはなかった(すくなくとも他に見つけられなかった)。情報伝達の問題は彼らを取り扱った問題ではないので、この論文は情報非対称性のモラルハザードの問題と OLG 政党の選挙モデルとを（そして政党の内部構造とを）結びつけたおそらくはじめての論文である。また他の OLG と Reputation を取り扱った論文（たとえば Tadelis(2002)）との違いとしては、各期において政党内での PC と VPC のステージゲームを想定していることがある。このステージゲームにおいて PC は VPC に彼の公約について伝え（有権者への公表前に）、VPC はそれに対応して PC のためにどれだけの選挙活動を行うかを決める。この活動のレベルは有権者から観察可能であるため、有権者は VPC の活動のレベルに一定の要求をすることにより、VPC を通して PC の行動をある程度、操作することができる。

**Alesina, John H. and Spear, Stephen E.** (1988): “An Overlapping Generations Model of Electoral Competition.” *Journal of Public Economy*, 37, pp.359-379

**Caillaud, Bernard and Tirole, Jean** (2002): “Parties as Political Intermediaries”, *The Quarterly Journal of Economics*, pp.1453-1489.

**Grossman, Gene M. and Helpman, Elhanan** (1996): “Electoral Competition and Special Interest Politics”, *Review of Economic Studies*, 63, pp.265-286.

**Harrington, Joseph E.** (1992): “The role of Party Reputation in the Formation of Policy,” *Journal of Public Economics*, 49, pp.107-121

**Heidhues, Paul and Lagerlof, Johan** (2003): “Hiding information in electoral competition”, *Games and Economic Behavior*, 42, pp.48-74.

**Tadelis, Steven** (2002): “The Marker for Reputations as an Incentive Mechanism,” *Journal of Political Economy*, 110(4), pp.854-882

**Wittman, Donald** (1983): “Candidate Motivation: A synthesis of Alternatives”, *American Political Science Review*, 77, pp.142-157.